

広報 もり 中部の森林



私の森語り「里山再生、地域の力で次世代へ」
NPO法人 きんたろう倶楽部 鈴木 茂信

写真：中部の森林フォトコンテスト2025 より
テーマ2「人の心を惹きつける山の表情」優秀賞「眩い鏡池」 小椋 亜須可（中信署管内）

特集

- ・半世紀を超える国土保全の取組～姫川地区民有林直轄治山事業
- ・120年ぶり、スズタケの一斉開花について
- ・森の巨人たち百選
- ・第3回中部の森林フォトコンテストについて

シリーズ

- ・現場最前線からの便り、私の森語り、中部の保護林



林野庁中部森林管理局

2026/No.260

半世紀を超える国土保全の取組 ～姫川地区民有林直轄治山事業～

I 姫川地区民有林直轄治山事業

長野県、新潟県にまたがる姫川上流域は、糸魚川・静岡構造線の影響を受けた地質条件に加え、豪雪や温泉変質作用を受けたことなどから、地すべりをはじめとする山地災害が多発する地域です。

昭和四十二年、糸魚川市の赤禿山^{あかばげやま}で発生した地すべり性の大崩壊をはじめとした山地荒廃が多数発生し、地域に甚大な被害をもたらしました。

この災害は復旧に高度な技術を要するとともに、長野県、新潟県にまたがる広範囲で緊急的な対策が必要であったことから、両県の要請に基づき、昭和四十八年に国（林野庁）が民有林を対象として直接事業を実施する「姫川地区民有林直轄治山事業」が開始されました。

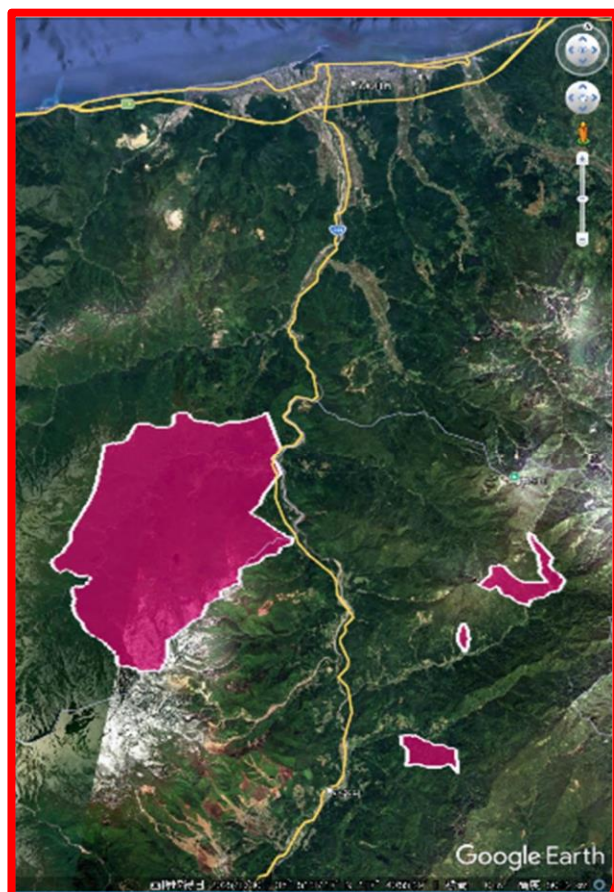
事業開始当初は直轄治山事業、直轄地すべり防止事業一箇所ずつを対象としていましたが、その後、災害に伴う事業区域の拡大や、新たな区域の追加などを経て、令和八年度

現在、直轄治山事業五区域、直轄地すべり防止事業六区域において事業を実施しています。



赤禿山の崩壊（S.42 撮影）

写真の中央、ひらがな「く」のように見える部分が、地すべりにより山体が崩壊して流出した土砂



姫川地区民有林直轄事業区域の面積は約 6,300ha



姫川地区民有林直轄事業区域の位置

Ⅱ 平成七年 七・一一水害の発生

平成七年七月十一日から十二日にかけて、新潟県上越地方及び長野県北信地方を中心に梅雨前線の活発化による集中豪雨が発生しました。姫川の氾濫をはじめ、流域各地で土石流や山腹崩壊、地すべりが発生し、国道一四八号線の橋梁の流出やJR大糸線の寸断など、地域に甚大な被害をもたらしました。



地すべりの発生による道路の損壊状況（糸魚川市山之坊地区）

この豪雨により、長野県小谷村と新潟県糸魚川市の境界に位置する蒲原沢でも被害が発生したことから、同流域が直轄治山事業地に追加され、国による復旧治山事業が開始されました。



姫川の氾濫により寸断された国道 148 号と JR 大糸線

写真右側の国道一四八号（水色破線）が寸断され、並行するJR大糸線（赤色破線）も線路が流された。写真の中央奥は寸断された道路橋。

Ⅲ 蒲原沢土石流の発生

平成七年七・一一水害の翌年となる平成八年十二月六日、復旧工事が進められていた蒲原沢で土石流が発生しました。この土石流は、蒲原沢の上流標高一、三〇〇メートル付近で発生した山腹崩壊に起因するも

土石流発生の要因となった蒲原沢源頭部の山腹崩壊の状況



ので、発生数日前の積雪や前日の降雨による融雪水の浸透により、崩壊土砂が土石流化したと考えられています。

この災害では、工事に従事していた方々が巻き込まれ、十四名の尊い生命が犠牲になりました。

IV 土石流に対する安全管理体制

災害発生後、工事現場における土石流災害への対応について様々な検討が行われ、警戒・避難体制や安全管理手法の見直しが進められました。危険渓流へのワイヤーセンサーの設置や監視員の配置、降雨や積雪状況に応じた退避基準の明確化、避難訓練の充実など、安全管理の強化が図られ、近年では、無人化機械やICT技術の活用により、安全性と施工効率の向上にも取り組んでいます。



山腹工の施工により緑化が図られた
土石流発生源崩壊地①



山腹工の施工により緑化が図られた土石流発生源崩壊地②



H7. 7. 11 水害後の蒲原沢 (H8)



治山施設（谷止工）の設置により安定し緑化が進んだ渓流



山腹工の施工により緑化が図られた
下流右岸の崩壊地

V 土石流災害から三十年・

蒲原沢区域事業の完了

令和八年度には蒲原沢区域の民有林直轄治山事業が完了を迎えます。長年に渡る復旧・整備により溪

流の安定化が進むとともに、源頭部の崩壊地も含めた流域全体の緑化が進展しました。整備された治山施設は、今後、長野県と新潟県に移管

され、適切な管理が行われる予定です。

姫川地区民有林直轄治山事業は昭和四十八年の事業開始以来、半世紀を超えて山地災害対策に取り組んできました。蒲原沢土石流災害から三十年という節目を迎える中、災害を契機に見直された工事現場の安全管理体制や、その後整備された安全対策は今日の安全管理の礎となっています。

今後も、これまで培ってきた技術や経験を活かしながら、安全管理の徹底と治山対策の推進に努め、地域の安心・安全の確保と国土保全に取り組んでまいります。

【治山課】

百二十年ぶり スズタケの一斉開花

ササの一種であるスズタケについて、過去の文献等から、長野県の中信や南信地域を中心に今年度の一斉開花が予想され、実際に各地において開花が確認されています。

木曾北部から上伊那、諏訪、塩尻では、一七八六年と一九〇六年に一斉開花したことが過去の歴史資料から判明しています。花を咲かせたササは枯れてしまうことから、広範囲にわたる枯死が予想されます。天然更新を阻害する要因でもあるササが、一斉開花によって枯死すること、樹木の天然更新や、新植地を加害するネズミの発生などが増加する可能性があります。

一斉開花に伴うこれらの諸現象を調査するため、国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所は、開花・枯死の実態把握に努めており、中部局では、同研究所へ情報提供を行っています。

第 162 号



発行 毎月 1・11・21
発行所 長野県森林局
編集 印刷 組合 会 社
長野県印刷組合

ササの一斉開花結実予想さる!!

木曾谷・伊那谷の中南部

ササの開花は昨年は一部に散見された程度であったが、今年は木曾谷の中南部と伊那谷の南部(主として飯田署管内)にわたり、大面積一斉に花が咲いており、野ねずみの大発生が予想される。現在すぐに上松・妻籠両署管内では造林地に野ねずみの姿が見う

けられ、附近においた弁当がけられた話や、苗木がくいあらされていることが報じられている。このまま進むと、去る二十七年御岳山を中心とした王滝・福島両署管内のササの開花結実による野ねずみの大被害を、はるかに上まわる被害が発生するのではないかと懸念される。

中部局の過去の広報誌(長野営林局ニュース(昭和三十一年、第一六二号・第一七五号)には、ササの開花結実と野ネズミの大量発生の記録が残っています。

近年では野ネズミの生息数が減少傾向にあることから、大規模な被害の発生は限定的と予想されますが、状況を注視する必要があります。

また、長野県では、県内の竹細工三箇所(信州竹細工)が長野県知事指定伝統的工芸品に指定されてお

り、そのうち、伊那市の篤竹細工では、スズタケを材料としています。

開花したスズタケは枯れて、種を落とし、翌年に芽吹いたとしても竹細工に使うような高さに育つには時間がかかります。

このため、スズタケの開花・枯死の進行状況を継続的に把握するとともに、関係機関で情報を共有し、必要に応じて森林管理や野生動物対策を検討することが重要です。

【技術普及課】



赤沢自然休養林のスズタケ(令和8年5月撮影)

長野営林局ニュース 第 162 号 (昭和31年6月11日)

野鼠多数発生

ササの開花結実に伴い

木曾谷および伊那谷の各南部において笹の開花結実したことは既報(本ニュース一六二号)のとおりであってこのため林木に被害を与える野鼠の異状発生が予想されていた。したがってこの防除に對処するため、これに關係のある現地ではこれの調査区を設定して定期的(月一回)に予察し、棲息数の推移、その種類等を調査して来たが、最近著しく個体数が増大し明らになった。

調査日	調査場所	調査者	調査結果
七月七日	上松	小川 207	昭和 二四年 キノ
七月七日	飯田	元岳	昭和 二六年 カブ
九月三日	上松	小川 207	昭和 二四年 キノ
九月三日	飯田	元岳	昭和 二六年 カブ
九月三日	飯田	元岳	昭和 二六年 カブ
九月三日	飯田	元岳	昭和 二六年 カブ

長野営林局ニュース 第 175 号 (昭和31年10月21日)

森の巨人たち百選

林野庁では、次世代に残すべき国有林野内の代表的な巨樹・巨木を「森の巨人たち百選」として選定しており、中部局管内では、次の十二本が指定されています。

番号	愛称・呼称	樹種	幹周(cm)	樹高(m)	所在地	管轄署	国有林名
48	森太郎(現存せず)	ブナ	534	25	長野県飯山市	北信	大神楽(だいかくら)
49	茂来山のこぶ太郎	トチノキ	531	22	長野県佐久穂町	東信	茂来山(もらいさん)
50	弘法大師のさかさ杖	シナノキ	377	17	長野県東御市	東信	新張山(みはりやま)
51	ジャンボカラマツ	カラマツ	408	34	長野県塩尻市	中信	奈良井(ならい)
52	ブナ平の立山スギ	スギ	940	21	富山県立山町	富山	ブナ坂
53	神坂大檜	ヒノキ	722	25	岐阜県中津川市	東濃	湯舟沢(ゆふねざわ)
54	宮の大イチイ	イチイ	690	25	岐阜県高山市	飛騨	宮(みや)
55	平湯の大ネズコ	ネズコ	760	23	岐阜県高山市	飛騨	平湯(ひらゆ)
56	天保林の大ヒノキ	ヒノキ	350	36	岐阜県下呂市	岐阜	赤沼田(あかんた)
57	荘川のアヘコマツ	ヒメコマツ	625	20	岐阜県高山市	飛騨	軽岡(かるおか)
58	荘川の大ヒノキ	ヒノキ	767	24	岐阜県高山市	飛騨	軽岡(かるおか)
59	笠木	ヒノキ	754	26	岐阜県恵那市	東濃	上村恵那(かみむらえな)





No. 49 茂来山のこぶ太郎

もらいさん 茂来山のこぶ太郎

長野県佐久穂町、東信署茂来山国有林にある幹周五三二センチメートル、樹高二メートルのトチノキ。茂来山への登山道の脇に、若木に囲まれ、悠然と立っており、幹には大きなコブがいくつも付いています。昭和三十年代は炭焼きが盛んで、周囲の木はほとんど切り倒され炭となりました。その大きき故か、暴れ木だったためか、理由は定かではありませんが、この巨木だけが生き残っています。

こうほうだいし 弘法大師のさかさ杖

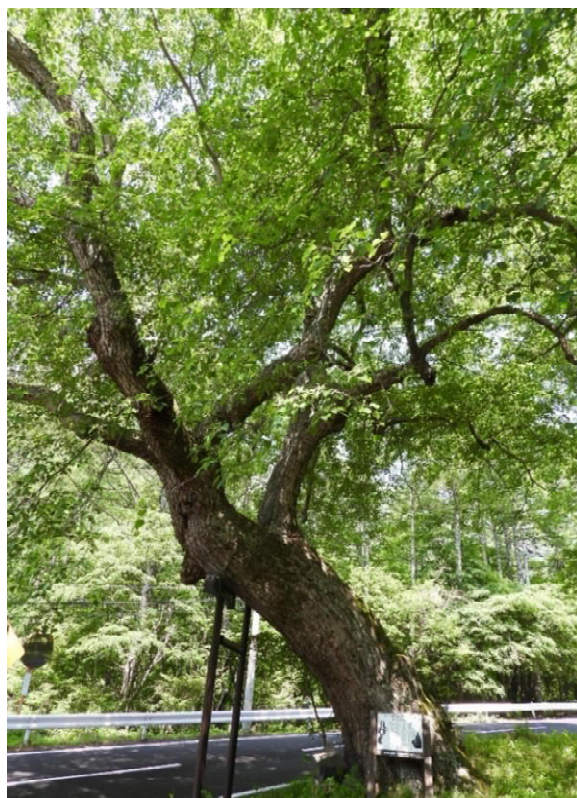
長野県東御市、東信署新張山国有林にある幹周三七七センチメートル、樹高一七メートルのシナノキ。長野県と群馬県をつなぐ地藏峠の途中にあり、四方に広く枝を張っています。約千年前、弘法大師が諸国行脚で峠を越えた際、茶屋に置き忘れた杖が根付いたと言ひ伝えられています。シナノキの樹皮は、古くから布や縄などの材料として利用されており、「信濃」の語源は、シナノキの多く生える地が由来ともいわれています。

ジャンボカラマツ

長野県塩尻市、中信署奈良井国有林にある幹周四〇八センチメートル、樹高三四メートルのカラマツ。木曽谷から伊那谷へと繋がる権兵衛峠で長年行き交う旅人を見つめてきた大木です。カラマツは冬に落葉する針葉樹で、春の芽吹きや秋の紅葉が美しい樹種です。信州カラマツが有名ですが、ほとんどが人工林で、天然のカラマツは貴重です。

ブナ平の立山スギ

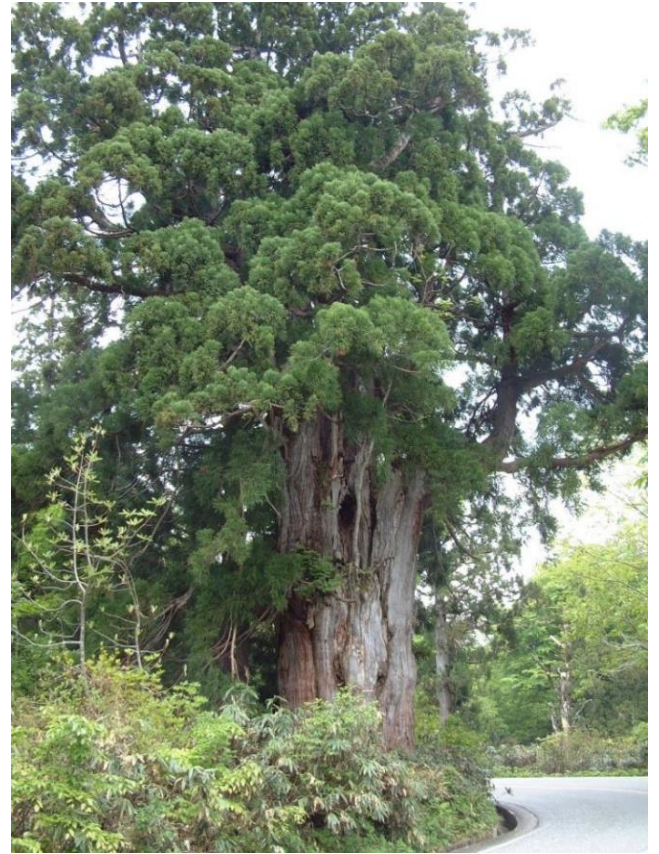
富山県立山町、富山署ブナ坂国有林にある幹周九四〇センチメートル、樹高二一メートルのスギ。富山県の立山・黒部アルペンルート沿線の美女平からブナ坂にかけて多くのブナ・スギなどの天然林が見られ、その中で最大のものが指定されています。巨樹の根元はササで覆われており、巨樹にはコシアブラ（ゴンゼツ）が着生しています。



No. 50 弘法大師のさかさ杖

岐阜県中津川市、東濃署湯舟沢
 国有林にある幹周七二センチ、樹
 高二五メートルのヒノキ。恵那山の中
 腹、標高一、三〇〇メートルの谷筋にあ
 り、周辺は木曽五木を中心とした
 樹齢二百五十年以上の天然林が広
 がり、神々しい雰囲気にも包まれて
 います。巨樹の根元はササに覆わ
 れ、長年の風雪に耐えてきた天然
 木ならではの風格があります。

みさかおおひ 神坂大櫓



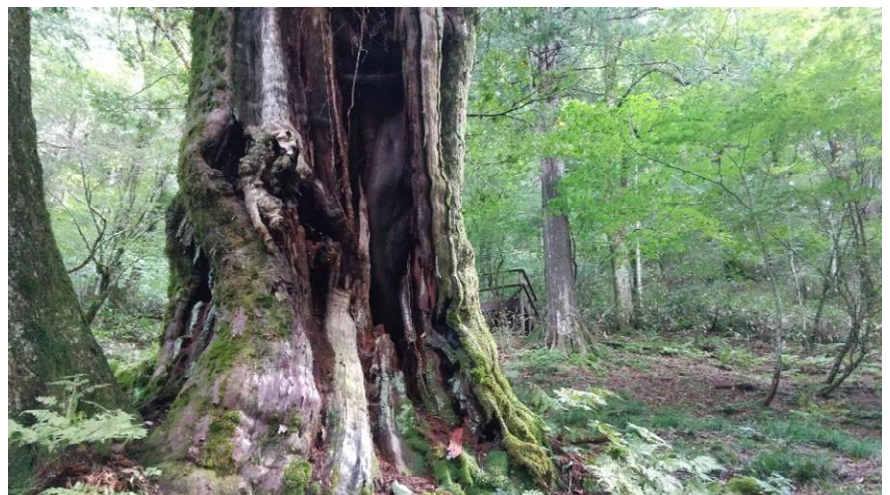
No. 52 ブナ平の立山スギ



No. 53 神坂大櫓

岐阜県高山市、飛騨署宮国有林に
 ある幹周六九〇センチ、樹高二五メートル
 のイチイ。ヒノキ、サワラ、ミズナラ
 などが生い茂る天然林の中に生育
 しています。二千年の刻の重みを感じ
 させる風格のある樹形で、堂々とし
 た幹と様々な着生物を育む大らか
 さがあります。

みや 宮の大イチイ

No. 54
宮の大イチイ

ひょう 平湯の大ネズコ

岐阜県高山市 飛騨署平湯国有林
にある幹周七六〇センチ、樹高二三メートルのネズコ。奥飛騨温泉郷平湯キャンプ場から徒歩で三十分ほど登ったところにあります。周辺は天然林でブナ、モミ、カンバなどが生育しており、巨樹の木肌は赤みがかった茶色、所々に白い斑点が見られ、根元には大きなコブがあります。



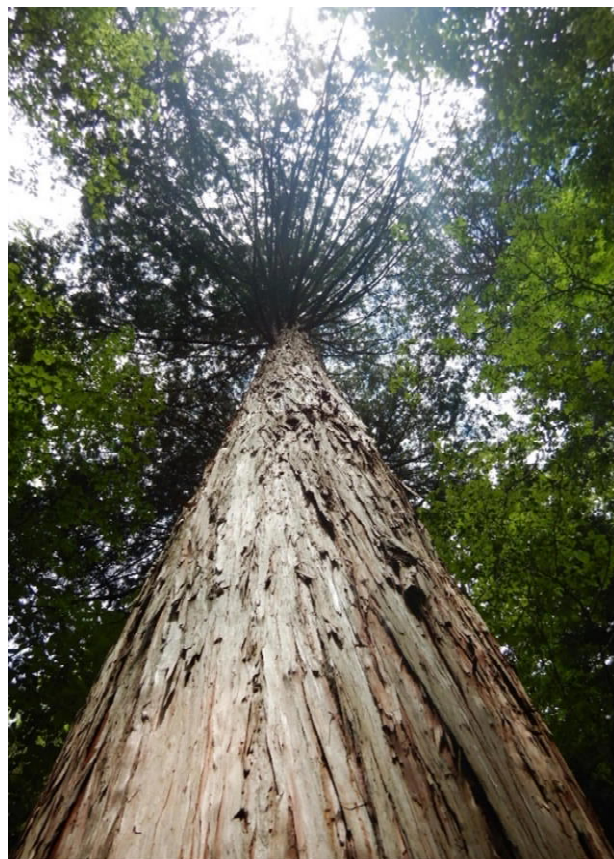
No. 55 平湯の大ネズコ



大ネズコの根元の大きなコブ

てんぼりん 天保林の大ヒノキ

岐阜県下呂市、赤沼田^{あかぬた}国有林にある幹周三五〇センチ、樹高三六メートルのヒノキ。江戸時代の天保年間に植栽された人工林（樹齢百六十年以上。約三〇センチ）の中にある最大のヒノキで、巨樹巨木の中でも人の手によって植えられたことが確認されている稀有な存在です。周辺にはサワラ、スギ、カツラ、ケヤキ、サクラの大木も生い茂っています。



No. 56 天保林の大ヒノキ

しょうかわ 庄川のヒメコマツ 庄川の大ヒノキ

岐阜県高山市、飛騨署軽岡^{かるおか}国有林にある幹周六二五センチ、樹高二十メートルのヒメコマツと、幹周七六七センチ、樹高二四メートルのヒノキ。この二本の間の距離はわずか四〇メートルほどです。周辺はヒノキ、ネズコ、ヒメコマツ、ミズナラなどの大径木が混生し、ヒメコマツの巨樹の根元はササや低木で覆われ、大ヒノキの根は地表からむき出しとなり大きく根上がっています。



No. 59 笠木

か
さ
ぎ
笠木

岐阜県恵那市、東濃署上村恵那国
有林にある幹周七五四センチメートル、樹高二
六メートルのヒノキ。上矢作町の尾根に生
育しており、周辺は尾根筋に天然林
が広がっています。戦国時代、恵那
の笠置地方の監視ができたため、こ
のように呼ばれるようになったと
云われています。巨樹は太い枝が張
りだし、笠のような樹形をしており
根元に大きなコブがあります。

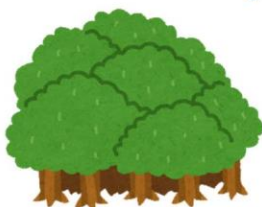
森林散策は自己責任が原則とな
ります。森の巨人たちに会いに行く
ときは、交通状況（注一）や熊の目
撃情報等（注二）、天候、登山情報
を確認し、十分な装備を整え安全に
配慮して入林しましょう。

（注一）専用林道を一般車両が通行
することはできません。また、現地
までの道が車両通行止め等の場合
がありますので、事前に交通状況を
調べて入林しましょう。林道及び林
内を歩行する際は、落枝や落石に注
意しましょう。

（注二）入林前には熊の目撃情報や
熊に出会わない対策を調べるよう
にしましょう。環境省や管内各県等
のツキノワグマに関するページは
下記コードからご覧ください。

【技術普及課】

中部森林管理局 HP
巨樹・巨木 位置図等
はこちらから



愛知県



岐阜県



長野県



富山県



環境省

希少植物が分布する

典型的な高層湿原

あもう 天生希少個体群保護林

設定目的

当該保護林は、典型的な高層湿原が所在し、岐阜県ではここでのみ生育するホロムイソウ、ヒメシヤクナゲ、ヤチスゲ等が分布することから、貴重な植物と周辺の天然林の保護・管理をしています。

地況・林況

岐阜県北部、飛驒山地の荘白川山地に細分される多雪（湿雪）地帯の標高約一、四〇〇㍎に位置し、大起伏や小起伏山地に囲まれた高原状の山麓地に、枯れた植物が十分に分解されず堆積して泥炭土となり（でいたんど）湿原（あもうしつげん天生湿原）が形成されています。

シリーズ

中部の保護林(第55回)

所在地
岐阜県飛騨市



和ムイソウ

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。

シリーズ



現場最前線からの便り

国有林の現場の最前線となる森林事務所・治山事業所等の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【東信森林管理署】

佐久森林事務所

森林官 岩本 真由子

本事務所は長野県東部に位置する、佐久穂町内の国有林を管轄しています。

かる威厳をもって立っており、地域住民に大切にされています。

管内の標高は一、〇〇〇メートルを超えると、夏は涼しく冬は厳しい寒さが続きます。毎日の現場は、もちろん屋外ですので、夏は気温以上の暑さを、冬は耳が凍るほどの寒さを感じます。自然が厳しい分、丁寧な準備のもとで毎日の現場に向き合っています。

管内は、カラマツを中心とした人工林が多く、地域の水源等の役割を果たしています。そのほか管内西部には、澄んだ湖面と山岳の風景が美しい双子池があり、東の茂来山には、森の巨人たち百選に選ばれたトチノキの「こぶ太郎」が、一目でそれと分

でその日の現場近くまで向かいます。林道沿いの現場ばかりではありません。林道沿い、現地までは足元に



提供：茂来山コブ太郎保護協議会

んから、現地までは足元に気を付け、危険を見逃さないように登っていきます。道中は鳥の音が響き、開けたところでは山裾に広がる佐久穂町の街並みや田畑が見渡せます。見慣れた景色ではあるのですが、自分は今とても美しいところで仕

事をしているのだと、日々しみじみと感動しています。

現場では、管轄する国有林に関するほぼすべての仕事をします。例えば本事務所では現在、主にカラマツを伐採して木材を生産し、多様な森林へ誘導するための事業を行っています。それらが安全かつ滞りなく完了するように、見守り指導する監督業務も、大切な仕事の一つです。

伐採終了後は少し寂しい景色となりますが、その後苗木が育ち世代交代していく様子を見ると、とても長いスパンの仕事に携わっている誇りを感じます。

他にも、林道の点検や、貸付した土地の確認など様々な業務を通じて、国有林の適切な管理に努めています。ちなみに、現場でのお弁当は大きな楽しみの一つです。体を動かしてお腹が空いている状態なので、外で食べると、一層おいしく感じます。

帰り道も気を引き締めて下山し、事務所まで帰ってくるとホッとします。事務所では書類仕事や道具の手入れを済ませて、家に帰ります。



日本一海から遠い地点に到達した筆者

【未来の担い手へのメッセージ】

「林学に触れたこともなければ、体力も無い。森林づくりに関わる仕事なんて自分には出来ないかな。」そう思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、でも、実際にはいろんな職員がいます。私自身、文系の運動オンチですから、大丈夫です。仕事に励む中で、必要な知識や体力はだんだん身につけていきます。

「森林官」という素敵な響きにワクワクする方は、インターンの機会などもありますから、ぜひ一歩踏み出してみてください。

シリーズ

私の森語り

もりかた

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



「里山再生、地域の力で次世代へ」

NPO 法人
さんたろう倶楽部
事務局長 鈴木 茂信

■自己紹介

令和二年からNPO法人さんたろう倶楽部（以下「さんたろう倶楽部」という。）の事務局を務めています。会社員時代には、毎年、立山・薬師岳・白山等に登山したほか、野山の植物や生き物を紹介する富山県自然解説員として活動を行っていました。その後、溪流釣りが高じて、イワナのえきになる河川水生昆虫について研究したいと思い、親の介護という事情も重なり、勤務していた一般企業を定年前に退職し、富山大学理学部大学院に入学し、二年間の研究生活を送りました。卒業後は縁があつて里山整備を主とするさんたろう倶楽部に関わることとなり、現在に至っています。

■活動内容

さんたろう倶楽部は、富山県内の里山再生活動として、富山市と「富山市市民参加の森づくり促進事業の実施に関する協定」を締結し、富山市を中心に一七地区の森林整備を実施しており、活動エリアは約一一〇ヘクタールです。また、四月には広く市民に呼びかけて、竹林伐採ボランティア事業として、約二〇〇ヘクタールの面積を二五〇名規模で実施しました。この活動は竹林による侵食が拡大してきた平成十九年頃から続けられていた事業です。竹林を皆伐した後は、ほぼ十年で約二、〇〇〇本の落葉広葉樹類を植樹し、現在では元の森に近い状態に再生されてきました。

また、平成二十二年から続けている「国民参加の森林づくり」では、これまでの協定地域に加えて、令和四年度より新たに北アルプスの立山弥陀ヶ原・天狗平での「立山天空の森整備」活動の協定を富山森林管理署と締結し、緑化復元事業で繁茂したミヤマハンノキ等の除伐を行っています。



標高 1,650m 立山天空の森整備

（恐らく全国の協定箇所の中では最も標高が高いと思われます。）

地域連携としては、学生との竹林整備体験を実施しています。特に子どもたちはノコギリで竹を切る経験がほぼなく、竹が倒れると大きな歓声が上がります。日常的に竹林整備をしている私どもとしては非常に新鮮な光景です。また、企業の森づくりに関しては、機材や専門人員の支援、里山の自然解説等を実施しているほか、当倶楽部が主な活動エリアとしている呉羽丘陵遊歩道の樹木調査、竹林の黄変についてのプロット調査等を実施するとともに、呉羽丘陵のウォーキングにも活用できるとする季節の花々や特徴などを紹介した冊子（下段参照）も発行しています。

■メッセージ

竹林も手入れがなされず放置されれば、野生動物のすみかになったり、広葉樹を枯らして土砂崩れの原因となるおそれがあります。今後多くの方に里山整備へのご協力を呼びかけ、竹の利活用ももっと進めたいと思っています。

モウソウチクはタケノコや水煮、メンマの原料だけでなく、アート・工芸品などに利用できるほか、竹チップは、防草や竹柵へ利用できます。また、竹が腐ればカブトムシが産卵して新たな生命が誕生する手助けとなるなど、用途は無限にあります。ぜひ里山に遊びに来てください。

■連絡先

富山市西金屋六七八番地

富山市くれば山荘

〇七六四三四一一三二六

info@kintaroclub.net



歴史と自然が交差する呉羽丘陵の魅力

～里人の 袖ふれあふ 呉羽の嶺へ～



2024年4月 和と笑いの里を歩く

富山県森林管理センター さんたろう倶楽部

第3回 中部の森林 フォトコンテストの 募集がスタートしました！

第3回
も り
中部の森林 フォトコンテスト

テーマ
森と人～未来へつなぐ山での営み～

応募締切：令和8年12月20日(日)

<事例> ※森や木と人の関わりがわかる 作品を対象とします

- 山を守り、山で働く人の姿
 - ・林業労働者、森林土木事業者
 - ・森林ボランティア活動など
- 山で学ぶ、山に親しむ人の姿
 - ・学生や森林環境教育の様子
 - ・自然休養林等での木育など
- 木や林産物を活かす人の姿
 - ・伝統工芸や技術継承の様子
 - ・木工作品に挑む様子など

<注 意 事 項>

撮影の際は必ず周囲の安全を確認するようにしてください。
また、応募された写真を確認し、作業等の様子に安全上の問題がある状態だと判断した場合には、審査の対象外となりますので、あらかじめご注意くださいようお願いいたします。

応募はこちらから



林野庁 中部森林管理局

デジカメ・スマホ・ドローン
撮影方法はなんでもOK！

富山・長野・岐阜・愛知
県内で撮影された写真限定

令和6年1月以降に撮影した
未発表の写真限定

応募は1人3点まで
(組写真は対象外)



第3回中部の森林フォトコンテストでは、「森と人～未来へつなぐ山での営み～」をテーマに森や木と人との関わりをとらえた作品を募集します。

山を守り、山で働く人の姿、山で学ぶ、山に親しむ姿、木や林産物を活かす人の姿、など様々な視点が考えられます。

【応募事例】

山を守り、山で働く人の姿

タイトル
『しみるう～』

撮影箇所
長野県北安曇郡小谷村



中部の森林 フォトコンテスト2025
応募作品

コメント

夏真っ盛り、仕事の合間に飲む栄養ドリンクが全身に染み渡ります。

【応募事例】

山で学ぶ、山に親しむ人の姿

タイトル
『これが三ツ緒伐りか、すご!』

撮影箇所
岐阜県中津川市



中部の森林
フォトコンテスト2025
優秀賞作品

コメント

伝統伐採技法「三ツ緒伐り」の練習会。見学に訪れた岐阜県立森林文化アカデミーの学生たち。

【応募事例】

木や林産物を活かす人の姿

タイトル
『うるしかき』

撮影箇所
〇〇県〇〇市〇〇



道の駅 木曽 ならかわHP「漆器のこと」より
<https://kiso.or.jp/lacqueware/>

コメント

ウルシは幹に傷をつけて樹液を採取します。一本の木から、樹液は年間60～250g程度しか採取できないので、大変貴重です。

応募は簡単♪

コードを読み取りホームページへGo!



応募用紙（Excelファイル）をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、写真と一緒にメール（migoro@maff.go.jp）に添付してご応募ください。

[【応募用紙\(Excel : 18KB\)】](#)

[【応募はこちらのメールから】](#)



応募用紙には、応募点数を記載する選択式セルとそれ以外の手入力セルがありますので色付きセルは入力もれがないようお願いします。

第3回 中部の森林 フォトコンテスト 応募用紙

応募点数	1
写真タイトル	
撮影場所	
写真へのコメント	
住所	
氏名(ふりがな)	
電話番号	
メールアドレス	

プルダウンリストから1,2,3いずれかを選択して下さい。
応募は3点までです。

2点以上応募される場合は、何点目かわかるようプルダウンリストを選択して下さい。

選択式セル

手入力セル

写真は、富山・長野・岐阜・愛知の4県で令和6年1月以降に撮影された未発表のものに限定します。

※複数応募される場合は、1点ずつ応募用紙を作成してください。写真データの様式はJPEG、容量は10MB未満です。

応募用紙及び写真データの送付先: migoro@maff.go.jp

土日・祝日を除き、応募から2日以内に受領確認メールを送信しますので、迷惑メールとならないよう設定をお願いします。

応募用紙の記載内容に不明な点がある場合の確認メールへご回答がないとお電話させていただくことがありますので、050-3160-6513からの電話が着信拒否とならないよう設定をお願いします。

⇒ [メール作成画面はこちら](#)

件名「【応募】第3回 中部の森林フォトコンテスト」と本文、宛先が自動的にセットされます。
宛先のドメインは maff.go.jp です。

※ Gmailなどで文字が化ける場合は [こちらから](#) お進みください

※ 使い方などの詳細・ヘルプはこちらです

▶ [説明を開く](#)

「メール作成画面はこちら」を利用して文字化けが発生する場合には、「こちらから」をクリックしメール作成画面へ進んでください。



宛先(T)

○ 総務課広報中部の森林

CC(C)

件名(U)

【応募】第3回 中部の森林フォトコンテスト

氏名: ←

電話番号: ←

←

ご応募ありがとうございます。 ←

※応募上の注意 ←

・応募用紙(Excel データ)を記入、添付をお願いします。 ←

・写真1点ごとに応募用紙1枚の作成をお願いします。 ←

・メールに写真データの添付をお願いします。(データ 10M以下) ←

<送信前のチェック事項>

- 応募用紙は記載しましたか？ 応募が複数の場合は1枚ずつ作成して下さい。
 - 写真サイズは10MB未満ですか？
 - メール本文へ氏名・電話番号を記載しましたか？
 - 応募完了のメールを受信できるよう「migoro@maff.go.jp」の登録を！
 - 電話問合せの際に着信拒否とならないよう「050-3160-6513」の確認を！
- 問題なければ送信ボタンをクリック、応募完了です♪

多くの皆さまからのご応募をお待ちしております。

各地からの便り

水無湿原の保全くNPO法人利賀飛翔の会との協働活動く

【富山森林管理署】

六月七日、南砺市利賀村水無国有林においてNPO法人利賀飛翔の会による水無湿原保全のためのワイヤーメッシュ敷設作業が行われました。イノシシによるミズバショウの踏み荒らし・掘り起こし対策として平成三十年から継続されており、敷設箇所では被害が見られず一定の効果が見えつつあります。今年で敷設作業は終了となりました。今後は笹の刈払いや水路確保等を中心に保全活動を継続していきます。



ワイヤーメッシュ敷設作業の様子



天然ヒノキの直径を図る学生

森林文化アカデミーの国有林実習
【森林技術・支援センター／

岐阜森林管理署】

六月十九日、岐阜県立森林文化アカデミーの学生二十二名が、岐阜署管内の国有林で現地実習を行いました。

長伐期施業林や間伐展示林の見学では、間伐の必要性や今後の施業方法について意見交換が行われました。また、民有林ではあまり見られない中間温帯の天然林の見学では、そびえ立つ天然木の大きさに驚きの声があがりました。

今後とも学校等からの要請に応じて、国有林の案内や情報提供に努めていきたいと考えています。

地域の方々と学習会

く歴史と文化の継承く

【東濃森林管理署】

六月二十五日と三十日、地域の皆さまと、裏木曽地域の森林・林業の学習会を行いました。令和七年六月に行われた式年遷宮に係る「裏木曽御用材伐採式」以降、森林・林業への関心も増していることから、第一回は地域の歴史と木材搬出技術、第二回は伊勢神宮との関わりと地域が担ってきた役割などをテーマとし、延べ五十名を超える方が参加されました。年齢層も幅広く、地域の皆さんの裏木曽の森林への熱意を感じました。



地域の歴史について説明を受ける参加者

各地からの便りは、ホームページへ詳細を掲載しておりますのでどうぞご覧ください。

各地からの便り



広報「中部の森林」260号
発行:林野庁中部森林管理局
編集:総務企画部 総務課 広報

〒380-5875 長野県長野市栗田 715-5

電話:026-236-2531

<https://www.rinya.maff.go.jp/chubu>



メールマガジンへ登録いただくと、広報「中部の森林」の発行日にURLを配信します。

(奇数月の発行を予定)

メールマガジンの登録サイト

<https://mailmag.maff.go.jp/m/entry> において

配信を希望するメールマガジンの中から

中部森林管理局広報「中部の森林」を選択して下さい。